



鹿児島市医師会臨床検査センター 設立50周年を迎えて

公益社団法人鹿児島市医師会 会長
鹿児島市医師会臨床検査センター長
上ノ町 仁

鹿児島市医師会臨床検査センター50周年誌の発刊にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。当センターは昭和45年4月に開設され、平成4年に20周年誌、平成13年に30周年誌が発行されておりますので、本誌は平成13年から令和2年までの20年間の歩みをまとめてあります。ご一読いただければ幸いです。

ここまで大過なく50周年を迎えることができたことは感無量であり、開設当初から現在まで運営に携わった担当理事と検査センターの職員の皆さん、またご利用いただいた会員の先生方のおかげと、心より感謝申し上げます。

さて、この20年間で一言で表現すると、「赤字体質からの脱却」が大命題でした。私も検査センターあり方委員会委員として平成22年から、医師会臨床検査センター担当理事として平成24年から30年まで運営にかかわり、大いに議論を交わしいろいろな施策を打って来ましたが、自前での運営は非常に厳しい状況でした。

翻って平成23年当時の代議員会の議事録を見ますと、医師会臨床検査センターが赤字体質から脱却できないため、今後の運営方針につき会員にアンケートを実施しております。執行部案の規模を縮小する新体制案希望が62.8%、移譲・廃止希望が34.1%であり、その結果を踏まえ代議員会が開催され、代議員間で賛成反対の真剣な議論がなされた後、新体制（規模縮小）案が採択されました。その決議を経て検査項目の見直しや人員整理等が行われましたが、思うように経営は改善せず赤字体質からの脱却には厳しい状況でした。

そこに転機が訪れます。現在経営が安定し健全な運営ができてきているのは、医師会臨床検査センターが生き残りをかけ、猪鹿倉前会長の大英断で平成29年4月にエスアールエルに業務委託をしたためであり、歴史的な大転換点だったかと思えます。お互いにWin-Winの関係性を構築でき、業務委託以降は経営的にも赤字を出さず、安定した運営ができております。

そして、この現在の安定した経営形態に行き着いた大元は、今から遡ること30年「ふたりの東」

の「夢」から始まります「ふたりの東」とは、東耕治参与（前局長）と東俊一様（株式会社エスアールエル代表取締役社長）です。30年前、当会の東係長とエスアールエル鹿児島営業所の東所長は、医師会臨床検査センターに「全自動臨床検査システム」が導入された当時、毎晩のように焼酎を酌み交わしながら、「会員や市民に役立つ検査センターの運営を医師会臨床検査センターとエスアールエルが協力してやれないか」、「会員医療施設の利用を高める方策はないか」とか「民間検査センター対策をどうするか」など多くの「夢」を熱く語り合ったそうです。このふたりの運命的な出会いを契機に、まさしくその当時の「熱き想い」「夢」が時を経て「業務委託」という形で歴史的結果として成就し、今日の健全な運営とこれからの未来へつながるわけで、30年前の「ふたりの東」に感謝いたします。

医師会臨床検査センターの50周年に合わせて、さらなる50年先を見据え、IT化を促進し3S（精度、スピード、サービス）をさらに充実させ、会員の先生方への利便性の向上を図るため、新臨床検査センターの建設計画が令和元年に始まりました。営業を継続させるため、医師会館1階駐車場に仮設臨床検査センターを開設し、旧検査センターを解体した後新検査センターの建設が始まり、令和2年12月に落成し、令和3年1月4日から稼働し始めました。新臨床検査センターの建設にあたり、東参与・上野副センター長やエスアールエルの東社長をはじめとする関係各位の皆様と、永園設計株式会社さま坂本建設株式会社さまに心より感謝申し上げます。

結びとなりますが、会員の先生方や医師会臨床検査センターに関わる全ての皆様へ、なお一層の叱咤激励を賜りますようお願いのお願いと、皆様のさらなるご活躍とご健勝を祈念いたします。皆さん、この新臨床検査センターのもと「会員の先生方のために、そしてその先にある患者さんや市民の健康のために」、50年先の「夢」を語ろうではありませんか。



鹿児島市医師会臨床検査センター 設立50周年を祝して

株式会社エスアールエル 代表取締役社長

東 俊 一

鹿児島市医師会検査センターが設立50周年を迎えるにあたり、心からお祝い申し上げます。

貴センターは昭和45年4月に設立されました。奇しくも、弊社も設立が昭和45年6月で、50周年を迎えることとなりました。貴センターが臨床検査を通じて鹿児島の医療に大きく貢献されてきたことは、上ノ町会長様をはじめ歴代の会長様、理事執行部の先生方や職員の皆様方の、医療と検査に対する並々ならぬご熱意とご努力の賜物であることに深く敬意を表します。

私は両親が鹿児島出身ですが、縁あってか、昭和62年（1988）にエスアールエルの鹿児島所長として赴任し、6年間を過ごしました。貴センターが「全自動臨床検査システム」を導入され、全国有数の検査センターとしての地位を確立されました頃です。

弊社は大学病院をはじめ大病院を中心に臨床検査を展開しておりましたが、鹿児島に着任し、地域医療に貢献されている医師会様の取組みを拝察することで、大いに勉強をさせられました。当時の小園検査部長様、東係長（前局長）様をご訪問し、貴センターを通して、会員の先生方に新たな医療情報、検査情報をご提供させていただきながら、今後の地域医療、臨床検査について、毎日のように昼も夜も熱いお話しをさせていただいたこと、鮮明に思い出されます。

この20年は、医療制度の大きな変化の渦にのまれ、医療費抑制策による診療報酬引き下げ等もあり、医療業界は厳しい状況下に陥りました。全国の民間検査センターも経営が厳しくなり、再編が始まると同時に、医師会検査センターも難しい状況にあると耳にはしておりました。

平成29年（2017）4月、私がエスアールエルの社長に就任した年に、貴センターと安定的かつ継

続的に事業運営をすることを目的に業務受託契約を締結し、運営を開始させていただきました。そして一昨年（2019）、貴センター50周年における新臨床検査センター建設構想のお話を上ノ町会長様よりお聞きし、それではと東京港区に開設した弊社港ラボのご見学を提案させていただきました。「常に頼れる。近くて、速い、検査ラボ」をコンセプトとしたショールーム機能を備え、最先端技術で制御された、より安全性に優れた全自動検査室。上ノ町会長様、当時の東局長様のご賛同をいただき、新たな検査センターの構築に入りました。我々は、鹿児島市医師会様のベストパートナーとして3S（精度・スピード・サービス）をさらに向上させ、会員の先生方に、また、地域住民の皆様が必要とされるセンターを実現してまいり所存です。

正式にお取引を開始して43年という長い歴史において、貴センターとのご縁、絆は何事にも代え難い弊社の財産であると、感謝の念に絶えません。今後は次のステップとして、更なる検査機能の充実だけではなく、弊社が提供いたします医療ICTの活用により、診療効率の向上、検査関連業務の低減、地域医療機関連携等、鹿児島の地域医療に貢献していく所存です。また、全国に発信展開できる唯一無二のセンターを目指し、尽力してまいります。

最後になりますが、50周年を迎えた貴センターが次世代に向け大きく飛躍され、益々ご発展されます事を祈念いたしますと共に、医師会の会員諸先生方並びに職員の皆様方のご繁栄とご健勝を心よりお祈り申し上げます。これから先の50年も鹿児島市医師会様、鹿児島市医師会検査センターと共に、「夢」を実現できるよう邁進する所存です。50周年、誠におめでとうございませう。